

Eosinophilie ニヨル十二指腸蟲病診斷論補遺

岡山醫學士

龜 山 晋

一 緒 言

或種ノ寄生蟲病ニ於テ血液中ニ「エオジン」染色性細胞ガ著明ニ増加ヲ來ス事ハ古來幾多ノ學者ノ興味ト注意トヲ惹キシ所ニシテ十二指腸蟲病ニ於テモ亦貧血ト俱ニ重ナル徵候ノ一トシテ注意セラレタル所ナリ。而シテ Cabot, Bayerth, Blach 氏ガ Eosinophilezellen ノ増加ヲ唱ヘタルコトアルノ外 Bruns u. Müller 氏ノ實驗ニヨレバ其ノ幼蟲ヲ皮膚ニ塗擦シテ後六乃至八日ヲ經ルト既ニ血中ニ其ノ増加ヲ見試験前ニハ 0.5% ヲ算セシモノガ三週間後ニ於テハ 5% ニ五週間後ニハ 25% ニ達シタリト云フ。又 レオー 氏ハ該病患者四十名ノ血液ヲ檢索シテ平均 10.0% ヲ得其ノ高度ナルモノニアリテハ 36.5% ヲ算シタリシト云フ。尙ホ其ノ外 Boycott 氏ハ幼蟲ヲ被檢者ノ腕ニ擦入シテ後五十日ヲ經テ血中ニ 50.0% ノ該細胞ヲ認メタリト云フ。又 Leichtenstern 氏ガ報ズル所ニヨレバ本患者中細胞增多ノ高度ナル者ニアリテハ 72% ニモ達スルヲ見タリト云フ。

我國ニ於テハ高洲博士ノ檢索アリ氏ニヨレバ何等合併症ナキ十二指腸蟲病患者二十一名ニ於テ本細胞 13.0 乃至 80.0% ヲ算シ其ノ合併症ヲ有スルモノ十餘名ニ於テモ尙ホ 8.2% 乃至 19.1% ヲ得ラレタリト云フ。而シテ同博士ハ其ノ増加ノ多少ハ自覺症狀及ビ貧血度ノ輕重ニ關係セザルコトト單純寄生者ニ於テハ本細胞數ガ常ニ單核細胞數ヨリモ多數ナル事トヲ注意セラレタリ。

其後森安博士ハ朝鮮ニ於テ、調査セラレタル結果ヲ發表シテ他ノ合併症ナキ者ニ於テハ常ニ本細胞ノ増加ヲ見殊ニ高度ノ貧血ヲ呈スル場合ニ於テ其ノ増加甚シク多キハ 30.0% ヨリ少キモ 5.1% ヲ算シタリト報ゼラル。

曾テ君塚陸軍一等軍醫ハ五名ノ本病患者ヲ檢査シテ 6.78% 乃至 40.07% ヲ得ラレ同時ニ赤血球數ニ比シ血色素ノ比較的の多ク減少セル事ヲ報ゼラル。

余モ亦外科の諸種疾患ニ於ケル血液檢査ニ從事セル際偶々本寄生蟲ヲ宿セルモノアルヲ見タルヲ以テ多少先進諸家ノ業績ニ注意シ尙ホ次ノ問題ニ考ヘヲ及ボシタリキ。

- 1) 本疾患ニヨル「エオジン」嗜好細胞增多ガ他ニ外科的疾患ヲ合併スルトキ如何ニ變化スルモノナリヤ又變化セザルモノナルカ。
- 2) 合併疾患(外科的)ヲ有スル際ニ變化アリトセバ絶對數ガ何等カ意義ヲ與ヘザルヤ否ヤ。

是レ他ナシ第一問ノ確定ハ直接本細胞增多現象ヲ臨牀的ニ應用スル上ニ直接ノ交渉アリ。第二問ハ絶對數ニ關シテ我國先進諸家ガ一言モ言及セラレアラザルヲ以テナリ。

自家實驗ノ方法

血色素計ハ Sahli 式ノ物ヲ用井、白血球計算ニハチュルク氏液、赤血球ニハトァソン氏液ヲ用ヒ何レモトーマ、ツァイス氏ノ血球計算器ヲ用ヒタリ。又染色標本製作ニハギーザム液ヲ使用シ時恰モ歐洲戰役旺ナル時ニテ缺乏ノ後ハ專ラロマノウスキー氏法ノベレストネフ氏改良法ニ從ヒ自家製染色液ヲ用ヒタリキ。採血ハ耳朵、朝食ニ於テセシ事法ノ如シ。

自家實驗成績

番 號	姓名 年齢	外科病名	糞便所見	血色素	白血球 (一立 耗中)	赤血球 (一立 耗中)	中 嗜好性 白血球	淋巴球	「エ オン」 嗜好白 血球	大單 核細 胞	變 遷 體	肥 饒 細胞	其 他
1	赤○ 隆○ 32	右側外鼠蹊 ヘルニア (治癒後)	十二指腸 蟲卵(+)	37%	12,969	2,143,750	62.0%	18.5%	16.0% (2030)	2.5%	0.0%	1.0%	
2	赤○ ミ○ 45	左側乳癌 (手術前)	十二指腸 蟲卵(+)	73%	5,189	4,693,750	46.0%	42.0%	7.0% (350)	2.0%	1.0%	2.0%	
3	塚○ キ○ 22	脊椎「カ リエス」 (投劑前)	十二指腸 蟲卵(+) 鞭蟲卵(+) 東洋線毛 蟲卵(+)	75%	13,125	6,953,125	55.5%	29.5%	10.75% (1398)	2.0%	1.5%	0.75%	
4	近○ 紋○ 郎○ 52	齒齦炎及 下顎癌 (手術前)	十二指腸 蟲卵(+) 鞭蟲卵(+)	52%	13,021	4,550,000	66.0%	17.75%	12.0% (1560)	1.0%	2.25%	1.0%	
5	高○ 春○ 72	頸部粉瘤 (手術前)	十二指腸 蟲卵(+) 蛔蟲卵(+) 鞭蟲卵(+)	60%	10,156	5,193,750	73.75%	16.5%	6.5% (657)	1.0%	1.75%	0.5%	
6	高○ キ○ 57	惡性肉芽腫	十二指腸 蟲卵(+)	32%	3,575	3,440,000	65%	19%	9% (320)	7%	0%	0%	
7	近○ 隆○ 30	急性蟲樣 突起炎 (手術前)	十二指腸 蟲卵(+)				57.4%	23.5%	10.9%	8.6%	0%	0.2%	

番 號	姓名 年齢	外科病名	糞便所見	血色素	白血球 (一立 耗中)	赤血球 (一立 耗中)	中性 嗜好 白血球	淋巴球	「エオ ジン」 嗜好 白血球	大核細胞	變遷體	肥饒 細胞	其 他
8	光○ 鉄○ 45	流行性 耳下腺炎	十二指腸 蟲卵(+) 蛔蟲卵(+) 鞭蟲卵(+) 籠形二口 蟲卵(+)	60%	7,657		57.0%	24.0%	13.0% (988)	3.0%	3.0%	0.0%	
9	橋○ 上○ 43	蟲癭突起炎 (中期)	十二指腸 蟲卵(+) 鞭蟲卵(+) 籠形二口 蟲卵(+) メタコニム ス東洋線毛 蟲卵(+)	50%	9,896	3,459,380	35.0%	21.0%	38.0% (3762)	2.6%	1.0%	1.6%	「エオジ ン」嗜好 髓細胞 0.8%
10	原○ 又○ 17	兩側化膿淋 巴腺炎	十二指腸 蟲卵(+)	65%	10,000	6,824,000	76%	20%	4.0% (400)	2.8%		0.2%	
11	田○ 義○ 35	膝關節ノ 化膿性筋 炎	十二指腸 蟲卵(+)	25%	32,000	6,800,000	70%	25%	2% (640)	3%		0%	
12	平○ 登○ 40	腎筋炎	十二指腸 蟲卵(+)	40%	22,000	5,440,000	72%	15%	9% (1980)	3.2%		0.8%	

概 括 結 論

- 1) 諸種外科疾患中十二指腸蟲ヲ寄生スルモノニハ非炎症性疾患ノ全部及ビ炎症性疾患ノアルモノニ於テ其ノ「エオジン」嗜好細胞增多ヲ認ム。
- 2) 絶對數ニ於テハ炎症性疾患ナルト非炎症性疾患ナルトヲ問ハズ常ニ「エオジン」嗜好細胞増加ス。故ニ絶對數ヲ顧ミルトキハ高洲博士ガ内科的合併症ニヨリ十二指腸蟲症ニヨル「エオジン」嗜好細胞増加ガ被ル影響ハ少ナシト云ハルル主張ハ外科的合併症アル場合ニモ事實ナリ。
- 3) 高洲博士ハ肺結核患者ニハ十二指腸蟲ヲ宿スモノト雖モ「エオジン」嗜好細胞甚ダ少數ナリトセラレ森安博士モ之ニ賛セラルレドモ外科的結核患者ナル我第三例ニ於テハ其ノ然ラザルヲ見ルハ甚ダ興味アル現象ナリト信ゼラル。

擱筆スルニ當リ恩師、西川、木下先生ニ感謝ス。

Literatur.

- 1) **Liermberger**, Anchylostomum. Berl. Kl. Woch., 1905.
- 2) **Staubli**, Über Eosinophilie, Volkm. Kl. Vortr., 1909.
- 3) **Schlecht**, Über experimentelle Eosinophilie und basophilie Leucocytose. Kong. f. in. med., 1910.
- 4) **Bruns u. Müller**, Anchylostomum. Munch. med. Woch., 1905.
- 5) 高洲謙一郎博士, 十二指腸蟲病他二三病ノ血液ニ就テ. 東京醫學會雜誌, 明治33年.
- 6) 同, 再ビ十二指腸蟲病及他二三病ノ血液ニ就テ. 同上.
- 7) 森安連吉博士, エオジン染色性細胞ノ臨牀的意義ニ就テ. 日新醫學, 第六年, 二號.
- 8) 君塚鏑太郎氏, 臨牀的血液檢査成績報告. 陸軍々醫團雜誌, 第一號.
- 9) **Grawitz**, Klinische Pathologie des Blutes. 4 Auf, 1911.
- 10) **Pappenheim**, Specielle Pathologie und Therapie innerer Krankheiten. T. Brugsch. 1915.
- 11) **Dr. Kurt Ziegler**, Diagnostik der Krankheiten des Blutes. Krause'sche Klinische Diagnostik, 1911.
- 12) 志摩次郎氏, 流行性耳下腺炎ノ血液所見. (日本小兒科醫學會總會 21 同).
- 13) 箕浦光雄氏, 惡性腫瘍ニ於ケル白血球ノ增多ニ就テ. 醫事新聞, 653 號.
- 14) 有光藤三郎氏, 過去八年間ニ佐藤教室ニ於テ手術セシ蟲樣突起炎ニ就テ. 日新醫學, 6 年, 9 號.
- 15) 宮入慶之助先生, 寄生原蟲研究ノ葉.